

たった1人の女子野球部

ある大学に女子硬式野球部が今年発足した。ところが、部員はわずか1人。「絶対に試合に出る」。白球を追う夢をあきらめきれなかった女子大学生は、仲間への加入を心待ちにしながら練習を続けている。

帝京科学大学に今年発足



女子硬式野球部員の山本七望さん（右から2人目）、相良光祐監督（左）や男子部員らと練習場に訪れている。いずれも帝京科学大



トスバッティングの練習をする山本七望さん

8日午前8時半。緑に囲まれたグラウンドで練習が始まった。1人の女子部員が野球経験がある大学職員とトスバッティングを行った後、監督とマンツーマンで守備練習のノックやキャッチボールをした。

練習に励むのは、帝京科学大学（上野原市）医療科学部2年の山本七望さん（19）。同大にできた女子硬式野球部の唯一の部員だ。この日、山本さんが練習で

2年・山本さん、監督や男子と練習

公式戦出場の夢へ仲間待つ

訪れたウインドブレーカーには、母校・鹿島学園高校（茨城県鹿嶋市）の女子ソフトボール部のロゴマークが入っていた。

出身は茨城県神栖市。小中学生のころは男子に交じって軟式野球に打ち込んだ。高校では女子ソフト部に入ったが、右ひざを脱臼する大けがで2年生のころから十分な練習ができず、試合にも出られずに悔しい思いをした。

昨年、理学療法士を目指して帝京科学大に入学した。大学では白球を追う楽しさが味わえないと思っていたが、今年4月に大学が女子の硬式野球部を発足させた。大学側は「近年、全国的に高校の女子硬式野球が活発になってい

る。受け皿を作るねらいがあった」と説明する。同時に男子の硬式野球部も数年ぶりに復活させた。

山本さんはけがの再発を心配し、入部を半年ほどためらった。だが10月7日、実業団の女子硬式野球チームに所属する高校時代のソフト部の後輩が、全国大会で活躍する姿をネットの生中継で見て奮い立った。

その日のうちにグラウンドへと足を運んだ。豊地をして

いた相良光祐監督に「野球部の人ですか？」と声をかけ、入部を願い出て女子初の部員となった。相良監督や、まだ数人しかいない男子部員と一緒に週2日、約2時間練習している。

相良監督は3月まで熊本県玉名市の専大玉名（現・専大熊本）高校で野球部監督を務め、4月に帝京科学大の職員となつて男女の硬式野球部を支えている。「女子も野球を生産スポーツとして楽しめるよう支えたい。理学療法士の試験、野球、バイト、遊びを頑張る『四刀流』を目指して」とエールを送る。

大学は来年度を「本格始動の年」と位置づけ、硬式野球向けにグラウンドの整備を進めている。来春にはユニホームも出来上がる。あとは部員の確保だ。

16日には来年度の入学予定者を対象とした硬式野球部の入部説明会が開かれる。男子は問い合わせが多く、チーム編成のめどがついてきたが、女子は難航が予想されるとい

う。山本さんは「一緒に公式戦出場の夢をかなえたい。待っています」と笑顔を見せた。

（記）田拓哉